

<登壇者プロフィール>



伊藤 錬 (いとう・れん)

Sakana AI 共同創業者 (COO)

2001年外務省入省。在米国日本大使館勤務を経て、本省にて日米安保、日EU経済連携協定交渉に従事。総理大臣通訳官も務める。2011年より世界銀行（ワシントンDC）に勤務。2015年よりメルカリ執行役員（グローバル事業担当）、2022年より英 Stability AI にて COO を務めた後、2023年に Sakana AI を共同創業。米 Nvidia や幅広い日本企業と提携の上、自然界の原理を応用した基盤モデル開発を進める。

2001年東大法卒、04年ニューヨーク大学ロースクール修了、05年スタンフォード大院修了。ニューヨーク州弁護士、ニューヨーク大学ロースクール・シニアフェロー。日米欧三極委員会（Trilateral Commission）委員も務める。



宮地 ゆう (みやじ・ゆう)

朝日新聞 編集委員

2000年、朝日新聞社に入社。東京社会部、GLOBE編集部、サンフランシスコ支局長、経済部、GLOBE副編集長などを経て、2024年4月から編集委員。



佐橋 亮 (さはし・りょう)

東京大学 未来ビジョン研究センター/東洋文化研究所 准教授

国際基督教大学教養学部卒。東京大学大学院博士課程修了、博士（法学）。専攻は国際政治学、特に米中関係、東アジアの国際関係、秩序論。オーストラリア国立大学博士研究員、東京大学特任助教、神奈川大学教授・同アジア研究センター所長を経て2019年度より現職。土地等利用状況審議会委員、科学技術外交推進会議委員、文化庁国際文化交流・推進委員会委員。また、日本国際交流センター客員研究員、日本経済団体連合会21世紀政策研究所客員研究委員、全米アジア研究所諮問委員を兼ねる。スタンフォード大学ア

アジア太平洋研究センター客員准教授、ウィルソン国際学術センター・ジャパンスカラー、ソウル国立大学客員研究員、経済産業研究所ファカルティフェローを歴任。著書に『米中対立：アメリカの戦略転換と分断される世界』（中央公論新社）、『共存の模索 アメリカと「2つの中国」の冷戦史』（勁草書房）、編著書に『世界の岐路をよみとく基礎概念』（岩波書店）、『冷戦後の東アジア秩序』（勁草書房）、訳書にアーロン・フリードバーグ『支配への競争：米中対立の構図とアジアの将来』（日本評論社）など。論文は日本語、英語、中国語にて多数。神奈川大学学術褒賞、日本台湾学会賞など受賞。